

高畠純夫先生 近影・業績

| | |
|-----|---|
| 雑誌名 | 東洋大学文学部紀要．史学科篇 |
| 巻 | 44 |
| 発行年 | 2019-03 |
| URL | http://id.nii.ac.jp/1060/00010849/ |





高島純夫先生（近影）

高島純夫教授は、二〇一九年三月をもって本学を定年退職される。一九九八年に赴任されてから、二一年間にわたり文学部史学科で学生、大学院生教育指導にあたられるとともに、数多くの研究成果を挙げられ、学部学科に多大な貢献をなされた。またこの間、白山史学会会長、歴史学会理事、史学会理事など複数の学会で要職を歴任され、我が国の歴史学の発展にも寄与された。国際的には、日韓中西洋古代史シンポジウムでのご活躍が知られている。学内では二〇一六年から二年間、文学部研究科研究科長を務められている。その豊かなご経験から常に学科の進むべき道を示してくださいました先生が去られることは、誠に惜別の念にたえない。

先生は一九五四年のお生まれで、東京大学大学院博士課程を単位取得退学された後、富山医科大学助教授を経て東洋大学文学部に着任された。先生のご専門は古代ギリシア史で、前五世紀から前四世紀にかけてのアテナイを対象に、当時の人々の政治観や宗教観の解明に取り組まれてきた。一九八〇年代以降、問題関心を多様化させ活況を呈する西洋古代史研究において、先生は中核的存在で有り続けた（戦後の古代史研究の歩みは先生の御論文「戦後日本におけるギリシア・ローマ史の歴史」に詳しい）。先生のご研究の特徴は、徹底的な史料中心主義にある。紀元前5世紀の弁論家アンティフォンの人物像に迫るため、先生は弁論や伝記のみならず関連史料を網羅的に収集し、そのすべてを分析の俎上に載せてひとつも疎かにされなかった。史料の囁きに耳を傾ける姿勢は、昨年公刊されたアイネイアス『攻城論』に付された膨大かつ精緻な註釈のなかにも貫かれている。これらのご成果は学界において末永く大きな財産となるであろう。

普段の先生はユーモアにあふれている。難しい会議の場でも、先生の一言で空気が和んだことは数知れない。先生はまた直感と直言の人でもある。直感はいいてい正しく、実際には直感というよりも具体的な根拠を持つのであるが、さつと決断して先を進む先生の後ろを、我々は追いかけるばかりであった。そしてその直言は、ときに厳しく本質をつき、我々が易きにつくことを踏みとどまらせた。東洋大学や歴史学のこれからを考えると、先生に教えていただきたいことはまだまだ多い。今後も益々ご健勝で、これまで以上に活躍されることを心からお祈り申し上げます。

高 島 純 夫 先生

経 歴

一九五四年二月 福岡県に生まれる

一九七八年三月 東京大学文学部西洋史学科卒業

一九八五年三月 東京大学人文科学研究科博士課程西洋史単位取得退学

一九八五年四月～一九八六年三月

日本学術振興会奨励研究員

一九八六年四月～一九九〇年三月

立教大学文学部、法政大学通信教育学部、国士館大学教養学部、東海大学文学部、横浜国立大学教育学部、横浜市立大学文理学部等非常勤講師

一九八九年一〇月～一九九八年三月

富山医科薬科大学一般教育助教授（歴史学）

一九九八年四月 東洋大学文学部助教授

二〇〇二年四月 東洋大学文学部教授

二〇〇五年四月～二〇〇七年三月、二〇一二年四月、

二〇一四年三月 東洋大学文学部史学科主任（二〇一三年に学科長に名称変更）

二〇一六年四月～二〇一八年三月

東洋大学文学研究科委員長

一九九五年一〇月～一九九六年七月

在外研究（古典学研究所…ロンドン、

イギリス考古学研究所…アテネ）

一九九七年四月～一九九九年三月

入試センター試験委員

二〇〇九年四月～二〇一〇年三月

在外研究（ロンドン大学University

College London（UCL）校客員教授）

二〇〇三年四月～二〇〇五年三月

専修大学文学部非常勤講師

二〇〇四年一二月 神戸大学文学部非常勤講師（集中講義）

業績

・著書

『アイネイアス『攻城論』——解説・翻訳・註解——』、東洋大学出版会、2018年7月10日、XIV+302頁。

『ペロポネソス戦争』、東洋大学出版会、2015年11月30日、239頁。

『古代ギリシアの思想家たち——知の伝統と闘争——』、山川出版社、2014年8月20日、103頁。

『アンティフォンとその時代——前5世紀アテナイの社会・思想・人間——』、東海大学出版会、2011年2月22日、771頁。

『アンティポン・アンドキデス弁論集』、京都大学学術出版会、2002年1月、389頁+29頁。

・共著

齋藤貴弘・竹内一博『図説 古代ギリシアの暮らし』、河出書房新社、2018年11月

・論文

『The Idea of *poiteia* in Ancient Greek History』、『人間科学総合研究所紀要』21号、83-99頁、2019年

「坂口安吾の仕事とその背景——古代ギリシア史専攻者の見た安吾——」、『日本文学文化』16号、26-37頁、2017年2月。

「国制を見る眼」、『ギリシャ哲学セミナー論集』Vol. XI、16-28頁、2014年3月。

「戦後日本におけるギリシア・ローマ史の歴史」、『人間科学総合研究所紀要』15号、31-49頁、2013年3月。

「古代ギリシア戦争研究の現状」、『東洋大学文学部紀要史学科篇』35号、191-229頁、2010年3月。

「アンティフォンという人物（後編4）」、『東洋大学文学部紀要 史学科篇』34号、187-226、2009年3月。

『Japan "Handwörterbuch der antiken Sklaverei, Franz

Steiner Verlag, Stuttgart, CD-ROM版、2008年7月、

Buchausgabe, *Handwörterbuch der antiken Sklaverei* (HAS) Band 2, ed. by H. Heinen, together with U. Eigler, P. Grischler, E. Herrmann-Otto, H. von Hesberg, H. Leppin, H.-A. Rupprecht, W. Schnitz, I. Weiler, & B. Zimmermann, Stuttgart, 1559-1562, 2017.
「アンティフォンという人物（後編3）」、『東洋大学文学部紀要 史学科篇』33号、219-237、2008年3月。
"Co-living（共生 *kyousei*） with *barbaroi*: from archaic to classical Greece" 『地中海研究所紀要』5、101-114、2007年3月。

「アンティフォンという人物（後編2）」、『東洋大学文学部紀要 史学科篇』32号、137-169、2007年3月。
「アンティフォンという人物（後編1）」、『東洋大学文学部紀要 史学科篇』31号、125-151、2006年3月。
「アンティフォンという人物（前編）」、『東洋大学文学部紀要 史学科篇』30号、133-194、2005年3月。
「前5世紀ギリシアにおけるアイデンティティと国際関

係——トゥキュデデスの語ること——」、『史潮』新55号、4-24、2004年5月。

「ソクラテスの場合——前五世紀アテナイにおける一知識人の人間関係——」、『東洋大学文学部紀要 史学科篇』27号、123-170、2002年3月。

「『正当であれ不当であれ殺すことを禁ずる法』——アンティフォン『四部作集』の謎——」、『東洋大学文学部紀要 史学科篇』26号、85-123、2001年3月。

「アテナイ帝国における外人と裁判——アンティフォン第5番弁論解読試論——」、『史学雑誌』109-4、43-70、2000年4月。

「アンティフォン弁論の年代について——暦・文体・コンピューター——」、『白山史学』36号、1-19、2000年4月。

「テミストクレス・ピュタゴラス・クセノフォン——古代ギリシアにおける宗教の特性と宗教をめぐる人間類型——」、『東洋大学紀要 教養課程篇』39号、1-19、2000年3月。

「クセノディカイとナウトディカイ——前5世紀アテナイにおける外人と裁判——」、『東洋大学紀要 教養課程篇』38号、1-15、1999年3月。

「ギリシア宗教理解のために」、「ホメロス」(89-93頁)、『*Orality and literacy*」(93-96頁)、伊藤貞夫・本村凌二編『西洋古代史研究入門』、東京大学出版会、1997年3月、80-82頁。

「アリストファネス喜劇と世論」、『西洋史研究』新輯26、21-46、1997年11月。

「女の置かれた立場——アンティフォン第一番弁論から——」、『研究紀要 富山医科大学一般教育』17、23-55、1996年3月。

「ギリシア史」、『ブリタニカ国際大百科事典』5、TB Sブリタニカ、1995年7月、306-339頁

“Funerary Laws and Athens,” *Kodai: Journal of Ancient History*, vol. 3, 1-13, 1992年8月。
葬儀令とアテナイ」、『史潮』新25号、83-95、1989年6月。

「誓い・神託・来世観——前4世紀アテナイにおける宗教の役割——」、『史学雑誌』97-9、36-57、1988年9月

「古代ギリシアの外人観」、弓削達・伊藤貞夫編『ギリシアとローマ——古典古代の比較史的考察——』、河出書房新社、1988年4月、301-325頁

“The Idea of *ξένος* in Classical Athens: Its Structure and Peculiarities”, Yuge & M. Doi eds., *Forms of Control and Subordination in Antiquity*, Tokyo, Leiden etc., 1988年1月, pp. 449-455

「ファレロンのデメトリオスの政治」、『バルカン・小アジア研究』11、25-41、1985年6月。

「*ξένος* 考——前古典期における外人——」、『西洋古典学研究』32、16-27、1984年3月。

・翻訳・註解

「イサイオス弁論集(2)」、『東洋大学文学部紀要 史学科篇』44号、

「イサイオス弁論集（1）」、『東洋大学文学部紀要 史学科篇』43号、215―290頁、2018年2月。

「アイネイアス『攻城論』——訳および註解——（5）」、『東洋大学文学部紀要 史学科篇』42号、248（1）―212（37）、2017年3月。

「アイネイアス『攻城論』——訳および註解——（4）」、『東洋大学文学部紀要 史学科篇』41号、248（1）―191（58）、2016年3月。

「アイネイアス『攻城論』——訳および註解——（3）」、『東洋大学文学部紀要 史学科篇』40号、240（1）―181（60）頁、2015年3月。

「アイネイアス『攻城論』——訳および註解——（2）」、『東洋大学文学部紀要 史学科篇』39号、228（31）―183（76）頁、2014年3月。

「アイネイアス『攻城論』——訳および註解——（1）」、『東洋大学文学部紀要 史学科篇』38号、276（1）―214（63）頁、2013年3月。

「ペロポネソス戦争末期史料集」、『東洋大学文学部紀要 史学科篇』37号、258（1）―187（72）、2012年3月。

「弁論家アンティフォン断片集」、『東洋大学文学部紀要 史学科篇』33号、238―294、2008年3月。

「ソフィスト・アンティフォン断片集」、『東洋大学文学部紀要 史学科篇』31号、152―249、2006年3月。

「パピュルス断片集」、『東洋大学文学部紀要 史学科篇』31号、282―250、2006年3月。

「アンティフォン断片集」、『研究紀要 富山医科薬科大学一般教育』16、1―63、1994年12月。

「アンドキデス弁論集」、『研究紀要 富山医科薬科大学一般教育』15、1―70、1993年11月。

「アンティフォン弁論集」、『研究紀要 富山医科薬科大学一般教育』14、1―68、1992年12月。

